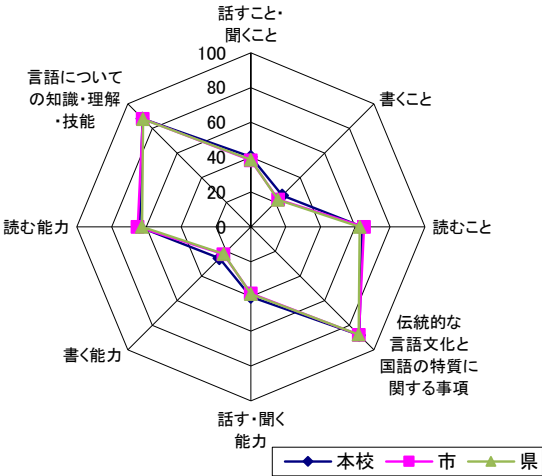


宇都宮市立富屋小学校 第5学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	話すこと・聞くこと	40.2	38.3	38.5
	書くこと	25.6	22.3	21.9
	読むこと	64.1	65.0	62.5
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	87.9	87.8	87.5
観点	話す・聞く能力	40.2	38.3	38.5
	書く能力	25.6	22.3	21.9
	読む能力	64.1	65.0	62.5
	言語についての知識・理解・技能	87.9	87.8	87.5



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	○全体として、市や県の正答率を上回った。特に「話すこと」に関する設問の正答率は良好であった。 ●「考えの共通点や相違点を整理しながら聞く」という設問に対しては、市や県の正答率を下回った。	・授業の中で、グループ学習やペア学習などの学習形態を工夫し、相手の考えを聞いたり、自分の考えを話したりする活動を取り入れているが、より積極的に取り入れ、特に相手の考えをよく聞くことに重点を置いて取り組むようにさせる。
書くこと	○全体として、市や県の正答率を上回った。特に選択式で解答する「文章構成を意識して内容を工夫しリーフレットを作る」設問に対しての正答率が高かった。 ●「友達の意見をもとにリーフレットのまとめを書く」という記述式の設問に対する無答率が28.2%と高かった。	・国語だけでなく、総合的な学習の時間や学校行事などの振り返りを通して文章を書く機会を多く設定し、文章を書くことに慣れさせていく。 ・条件を付けて文章を書かせるなどの活動を取り入れ、スキルの向上を図る。
読むこと	○「叙述をもとに、登場人物の気持ちを想像して読む」設問や、「文章の要点や細かい点に注意して読み、言葉を引用する」設問の正答率は市や県を上回った。 ●「中心となる語や文に注意して小見出しをつける」「文章を読んで考え、まとめたことを発表し合う」設問は市や県の平均を下回った。	・読書に親しむ時間や読み聞かせの時間を確保を継続し、楽しみながら文章を読むことができるようにするとともに、より内容の多い、難しい本を読んでもみることに挑戦するよう支援する。 ・読んだ内容を整理したり、読んで考えたことを話し合ったりする活動を取り入れ、「文章を整理しながら読む」力をつける。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	○「漢字の読み」の問題3問に対し、すべての児童が正答した。 ●「慣用句の使い方」の問題に対しては、市や県の正答率を大きく下回った。 ●「接続語の役割」の設問に対しては、市や県の正答率を下回った。	・漢字の読み書きについては、家庭学習への取り組みや、繰り返し学習の取り組みが効果を表し始めているので継続していく。 ・様々な慣用句やことわざに触れる機会を多く取り入れ、意味や使い方を理解できるようにしていく。